

第一次朝堂院の広場整備に関する問題点

平城宮跡を守る会 2012/10/16

①朝堂院跡周辺の舗装は、平城宮跡の価値そのものを毀損する

第一次朝堂院跡は平城宮跡の中心部であり、象徴的な意味を持つ、大切なエリア。

近鉄線の車窓から一望でき、古都奈良の第一印象となる、すばらしい緑の広がり。

半世紀にわたる草地の風景は、地元ばかりでなく日本人の心の原風景。

埋立て舗装は、その自然豊かな歴史公園としての価値を毀損し、「歴史に思いを馳せることのできる情感豊かな空間」を破壊する。

舗装は、歴史公園としての価値を毀損するだけでなく、一般的な公園としての可用性も低下させる。同様の舗装が為された「朱雀大路」の利用状況を観察すれば一目瞭然である。

- ・散策する人の姿がない
- ・イベント時に砂埃がひどく、食べ物も物販商品も砂まみれで楽しめない
- ・夏は暑くて通行すら困難

②工事のコンセプトがそもそも合理性を欠いている

「広場整備のポイント」として、「朱雀門から第一次大極殿を真正面に見据え、往時の広がりを感じながらアプローチができるようになる」「復原された基壇を間近で体験できるようになる」とあるが、意味不明である。

- 1 近鉄線が厳然と存在しており、「往時のアプローチの再現」には無理がある。
- 2 「往時」は朝堂院があり、視界は現在より狭かった。「広場があつて建物が無い」光景は、長岡京遷都直後の荒廃した状態の再現にしかない。
- 3 そもそも、広がりなら草原でも充分感じられる。
- 4 基壇に近づくためなら、通路を造ればよい。45,000平米を舗装する必然がない。

③工事における「優先事項」が優先されていない

国交省平城分室は、工事をする上で優先した事項として「自然保護」「遺構保護」の2点を挙げている。まったく納得できない。

自然保護

45,000平米の、半世紀にわたって育まれてきた草地の動植物を全滅させる工事。どこが自然保護か？

当該エリアは平城宮跡の中心部。生態系は、「面」としてのつながりの中で十全に機能する。道路一本通しても、自然にとっては「傷」である。中心部を奪われてドーナツ状になると、その悪影響は大きい。生態系の機能低下を招く。

遺跡保護

平城宮跡の埋蔵文化財は、田んぼ・草地という状態で1300年間守られてきた。それが保存の実績。同様の状態を維持することが、科学的に正しい遺跡保護のあり方である。それを大きく変更する行為は、経験と歴史を軽んじている。

「埋蔵文化財に影響を与えるものではない」という判断には、実際問題、何の保証もない。百年後、五百年後の悪影響を考慮しないがゆえの愚論であり、看過できない。

④歴史公園構想自体が適切な見直しを受けておらず、現状に即していない

現在の整備計画は、1977年に文化庁が策定した「平城遺跡博物館・基本構想」を踏襲したもの。すでに35年前の考え方であり、状況は大きく変っている。当時の資料に、来場数の予測として夢のような数字が掲げられているが、現実と完全に乖離している。「従来の整備方針では予測通りの結果が出ない」という知見がフィードバックされていない。

遺構表示については、埋立て舗装をしなくても、草地のよさを生かしたまま

- ・立木や植え込みで区画を示す。
- ・案内板の設置を増やす。
- ・遺構をITでヴァーチャル再現する。

といった方法が容易に考えられるが、国交省はそのいずれも検討した形跡がない。

緑の機能に着目し、都市緑化を推進している国土交通省が、なぜ今、都市部の貴重な緑を大規模に破壊するのか？ 全く一貫性を欠いている。整備計画を見直すべきである。

⑤歴史的経緯と利用者のニーズを把握できていない

平成20年12月に出された「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画」の「空間配置計画」に「本公園では、歴史資産、景観、アクセス、現況利用・地域ニーズの4点を踏まえてこれを設定する」とあるが、今回の工事は「歴史資産」を破壊する可能性があり、「景観」を大きく損ない、「現況利用・地域ニーズ」から著しく乖離している。

第一次朝堂院の広場の埋立て舗装は、今後の誘客に繋がるとは到底考えられない、無謀な整備方針である。これは、現行の空間配置計画に瑕疵がある可能性を考えざるを得ない。さらには国土交通省の、平城宮跡の管理者としての適格性すら疑われる。

⑥国民・利用者に対して説明責任を果たしていない

平城宮跡第一次朝堂院跡は、日本のシンボリックな場（トポス）であるに関わらず、工事に際して一般の道路補修程度の説明しかなく、全くと言っていいほど周知されていない。これは驚くべき失態である。すぐに工事を中断し、時間をかけ、丁寧に説明する必要がある。

以上

要望書

2012/10/16

国道交通大臣殿
文化庁長官殿

わたしたち奈良を愛する「平城宮跡を守る会」は、以下のことを求めます。

- 1 平城宮跡の第一次朝堂院跡の広場の埋立て舗装工事の即刻中止を求める。
- 2 市民に、本事業の決定の経緯、計画の意味のていねいな説明を求める。
- 3 既存の計画を見直し、歴史と自然の調和する新しいコンセプトの公園構想を求める。
- 4 新構想は、環境保全、自然保護、省エネルギーという時代の流れに沿って検討されることを求める。
- 5 新構想は、拙速に決定するのではなく、数年単位の時間を掛けて、ゆっくりとていねいに検討されることを求める。
- 6 新構想の策定に関しては、広く市民に門戸を開き、さまざまな立場の市民が自由に意見を述べ、検討に参加できる場を設けることを求める。
- 7 平城宮跡が、単なる広場でも遺跡でもなく、日本人の心の拠り所であり、固有の価値を維持し続けている場所であることを認識し、この地を尊び、ぞんざいに扱わないことを求める。
- 8 平城宮跡とともに暮らしてきた人々の歴史とその心情に敬意を払うことを求める。
- 7 大幅な現状変更となる本事業に関して、ただちにユネスコの世界遺産委員会に報告することを求める。
- 8 地下埋蔵文化財に関して、もっとも信頼のおける保存方法、つまり1300年保証の現状維持を最優先させることを求める。

平城宮跡を守る会
代表 寮 美千子